

2011.1.28

## 女性・高齢者の就労支援と家庭支援及び雇用の創出

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

主任研究員 阿部真大

### ワークフェア国家としての日本

- 日本は雇用と生活保障を結びつける「ワークフェア」国家である。
- 「働かざるもの、食うべからず」
- 誰が賃金を得てきたか？
- 主に男が賃金を得ていた。
- 男性(ブレッドウィナー)＋女性(専業主婦)からなる「近代家族」
- 近代家族＝戦後家族

## 超安定社会としての戦後日本

- 働き手① 企業の正社員(新中間層)
- 学校システムと間断なく接続＝新卒一括採用
- 働き手② 自営業、農業(旧中間層)
- 規制による保護
- 働き手①が革新の支持基盤、働き手②が保守の支持基盤
- 戦後の55年体制を形成
- 「超安定社会」と戦後日本の繁栄

## 自営業の没落と公共事業

- 70年代後半以降、大平-中曽根ラインの「新しい自民党」が規制緩和を押し進める(「新自由主義」と呼ばれる)。
- 保守と革新の融合
- 自営業の没落と旧中間層の崩壊
- 商店街の崩壊⇒「ファスト風土」化する地域
- 自営業層の没落の受け入れ先としての建設業
- アメリカからの圧力(前川レポート)と建設業の隆盛(「土建国家」的性格の強まり)

## 戦後社会の終焉

- 小泉構造改革による公共事業費の削減
- 産業構造の転換(第二次産業から第三次産業へ)
- 政権交代「コンクリートから人へ」
- 低賃金な対人サービス職と高度な技術職への二極化(「グローバルシティ」(サッセン))
- ブレッドウィナー(男性稼ぎ主)型モデルの崩壊 ⇒ 戦後社会の終焉

## 後に戻るか前に進むか？

- 再び、雇用による生活保障
- 「ブレッドウィナー」モデルからはみ出た人々をいかにして雇用の場に包摂していくか？
- 就職できなかった学生、リストラされたサラリーマン、シングルマザー、年金のない(少ない)高齢者、経営破たんした自営業主……などなど
- 再び「土建国家」的バラマキを続けるか？

## 医療・福祉産業の可能性

- ムダは排し、新しい産業に接続していく必要がある
- 急成長する「医療・福祉産業」
- 「医療・福祉産業」は、労働者にとっては自分の「生活のセーフティネット」、もちろん、利用者にとっては自分の「生命のセーフティネット」
- 二重のセーフティネットとなりうる可能性を秘めている。

## 生活保護は受けられる？

- 「では、みなさん、ヘルパー2級でもって介護の仕事をしてください。」
- 「建設業従事者、商店主、リストラされたサラリーマン、年金がなくて働ける高齢者、仕事がなくなったら介護の仕事をしてください。」
- 実際は……無理。では、そんな人は生活保護を受けられるか？
- これも無理。

## 生活保護を受けるための要件及び生活保護の内容

「生活保護は世帯単位で行い、世帯員全員が、その利用し得る資産、能力その他あらゆるものを、その最低限度の生活の維持のために活用することが前提でありまた、扶養義務者の扶養は、生活保護法による保護に優先します。」

「能力の活用とは・・・働くことが可能な方は、その能力に応じて働いてください。」

(厚生労働省のHPより抜粋)

## なぜ就労支援か？

- 「働け」と言いつつ、働くための準備をさせることも働く場所の整備をすることもしない状態⇒「仕事はあるのに働けない」人を大量に生み出す
- 労働供給側へのテコ入れ(就労支援)と労働需要側へのテコ入れ(労働環境の整備)
- 最終的には社会のコストも軽減することになる。

## 地方分権とは何か？

- 2000年代の前半に小泉内閣のもとで進められた「三位一体の改革」は、強力なリーダーシップのもと、地方分権と財政再建を強力に押し進めた。
- その推進役であった経済学者の竹中平蔵は、政界引退後、地方分権について、論じている。

かつて社会全体の資源の蓄積度が低いような状況下では、国が集中的に資源を管理して、それを地方に配分するというやり方に意味がなかったわけではない。しかし、資源蓄積が進み、資源が十分に行き渡ってくると、集中管理のデメリットのほうが目立ってくるようになる。典型的なデメリットは、きめ細かな行政サービスができないことである。日本人の生活水準は上がった。このため一律のサービスではなく、地域の実情に合わせたもときめ細かなサービスを求めるようになった。それが、地方分権への大きな駆動力になっている。また、「きめ細かく」という言葉には二つの重要な経済的な意味がある。一つは、いいサービスを提供するということであり、もう一つは、責任を持って行うということである。この点で、「地方分権」と「民営化」は相通じるものがある。いずれも「現場を信じて現場に任せる」ことが原則だからである。現場を信頼し、責任を持って現場に任せることこそが、地方分権であり、民営化というものである。(竹中2008:152-153)

## 「個人」への強すぎる期待感

- 1「新しいサービス」が育っていなかった。
  - 日本における「協セクター」への期待の強さ(上野千鶴子の「協セクター」論とも通じる)
- 2「新しいサービス」を産業政策とどうリンクしていくかについてのビジョンがなかった。
- 3「新しいサービス」の中身の詰めが不十分であった。
  - 介護と医療の関係など
- 4「新しいサービス」の担い手についての議論の甘さ
  - そう簡単に人は切り替わらない

## 長寿国につぼん活性化戦略

- 「三位一体の改革」の批判と乗り越え
1. 福祉社会実現のための新しい公共セクターの構築
  2. 医療・福祉産業の活性化によるまちづくり戦略
  3. 長寿社会における高齢者の介護・医療システムの適正化戦略
  4. 女性・高齢者の就労支援と家庭支援及び雇用の創出

## 就労支援とは？

- 働くことによる社会への包摂＝ワークフェア
  - 働ける人には働いてもらう
  - 稼げる人には稼いでもらう
- ⇔生活保障と雇用を切り離す
  - 「ベーシックインカム」という考え方
- 現時点では、日本はワークフェア国家である
  - 将来はどうか分からないが・・・

## 四つの橋

- 「教育」とつながる橋
- 「**家族**・コミュニティ」とつながる橋
- 「失業」とつながる橋
- 「体とところの弱まり・障害・**加齢**」とつながる橋
- 「この橋を架けるのは、必ずしも地方政府だけではなく、NPOや福祉産業など、民間の多様な主体が関わることになる。」



## 参加保障の拡大

- 「所得保障」から「参加保障」へ
- 『地方分権型の「ほどよい政府」を –21世紀日本の福祉国家と地方政府–』
  - 公共投資の見直し(土建国家型の公共事業からの脱却)と税源移譲の推進(地方分権化)によって、地域の福祉予算および福祉産業の育成に資金をより多く振り向けることができるようになれば、新しい産業政策によって地域に就労の機会が広がる(「**コンクリートから人へ**」)。
  - 地域の人々にその機会を活用し、労働市場およびさまざまな社会活動に参加する条件を提供することが、地域の福祉政策の新しい課題となる。
- ここまでは「三位一体の改革」の路線

- 本研究が担当するのは、まさしくそれらをつなげる橋をいかにして構築するかという問題で、つまり、労働力の供給側と需要側の「**マッチング**」の問題である。
- 産業基盤が整い(2)、報酬が適正化され(3)それを担うNPOが育ったとしても(1)、それと地域住民とをつなぐ橋が壊れていては、システムが潤滑にまわることはないだろう。
- 「結婚紹介所」のようなもの
  - 世の中には恋愛して結婚まで持ち込めるタフな個人ばかりではない

## 高齢者の就労の問題

- 資産をもつ高齢者はそもそも「雇用による社会への包摂」が必要なのか？
- ボランティア、趣味活動による社会参加でよいのでは？
- 実際はどうなのか？
- 国民年金の平均支給額:53602円(平成19年 社会保険庁)
- 高齢者間の格差(老後は「サラリーマン天国」)
- 生活保障のためにはプラスアルファの就業が必要

## 調査結果の紹介 ①

- 長寿社会政策研究所による調査
  - 「60歳を過ぎてからも仕事を持ちたいと希望する人」 76.2%
  - 「仕事を持ちたいが、その目処はまだ立っていない」と答えた人 36.6%
- 60歳以上になっても働きたいことの原因
  - 「現在の生計を維持するため」64.3%
  - 「頭や体がなまるのを防ぎ、健康を維持するため」50.1%

## 調査結果の紹介 ②

- 「老後の生活資金を用意するため」 47.3%
- 「自分の生きがいのため」 39.5%
- 「社会とのつながりを絶やさないため」29.1%
- 経済的な理由と非経済的な理由が入り混じっている。
- 就労希望者 男性で83%、女性で72.1%
- 仕事の目処が立っていない人 男性で31.1%、女性で25.2%

## 調査結果の紹介 ③

- 定年前にあると予想される1950年から1951年生まれの人
- 男性で42.9%、女性で36.2%
- 「仕事を持ちたいが、その目処はまだ立っていない」と考えている層が、定年前の男性に最も多い。
- これはピンチか？チャンスか？

## ハローワーク(三宮)に行ってみる

- 大量の介護系の求人
- しかし…
- 男性ヘルパーの募集はあるのか。ある日のハローワーク(旧職安・都内)を訪ねた。相談窓口の担当者は声を細めて、「同僚に男性がいない」「ひとりぽっち」「相談相手がいない」。(山口2006:1)
- 「初めて認知症グループホームへ現場実習に出た40代中年男です。現場はまったくの初体験。利用者への対応も戸惑ったけど、職員も利用者もほとんどが女性の、あの独特な雰囲気は想像以上でショッキング…職員はいつもガールズトークで、こちらは放置プレイ。」(2008/08/14「2ちゃんねる」)

## 男性の「居場所」の問題

- 一緒にいればそのうちそこが居場所になる？
- 「居場所」の問題に疎い人では、この問題は解決できない。
- 「寂しさ」+「恥ずかしさ(手持ちぶさたさ)」が生み出す「居場所のなさ」の問題
- 入口の部分での男性労働者の排除
- いかにするべきか？

## してはいけないこと

- 「居場所の拡張」
- 定年前、管理職にあった男性が会社員のノリでケアの現場にやってきても、地域社会ではやっかいもの扱いされて、気まずくなって辞めてしまうのがオチ ⇒ ×
- 「過剰適応」
- 主婦的な働き方を真似て同じことをしようと思っても、最終的にストレスがたまってしまう ⇒ ×

## 「差異化」戦略

- 「差異化」戦略
- 男の仕事／女の仕事と分けて、男の仕事をする事で居場所をつくっていく。
- はじめのうち、一時的、部分的にはうまくいくが、結局どこかで無理を生じかねない。
- 対人サービス業は不定形で、可塑的なものであるため、働いている人同士の協力とそのためのコミュニケーションが必須となってくるから。
- 「居場所の拡張」の危険性

## 「同化」戦略

- 「料理は自信がないが、先輩から教わった」、「自分は料理を二年間努力してきた」と、現場で必死に料理を習得しようとする男性ヘルパーの発言(山根2007:100-101)
- 「過剰適応」のストレス
- 「同化」戦略でも「差異化」戦略でもない、第三の戦略は？

## 闘争理論

- G・ジンメル
- 事実に闘争の原因、憎悪と嫉妬、困窮と欲望は、もともと社会を解体させるものである。これらによつてはじめて闘争が勃発するとすれば、それはもともと相互に分散しようとする二元主義にたいする是正運動であり、たとえ相手の否定によってであるとしても、何らかの統一に到達せんとする方法である。——それは病気のもっともはげしい症状でさえ実はしばしば、疾患と傷害からまぬがれようとする有機体の努力をあらわしているのとほぼ同じである(Simmel 1923=1994:262)

## さらなる発展

- L・A・コーザー
- 「一つの集団のなかでの闘争は、しばしば既存の規範の復活に役立つ。あるいはその闘争が新しい規範の出現に貢献する。この意味で、社会闘争は新しい条件に適合した規範を調整するためのメカニズムである。柔軟性のある社会は、闘争行動が規範を創ったり修正したりするのに役立つことによって、変化した条件下でのその社会の存続を保証するので、闘争から利益を受ける。規範再調整のためのそのようなメカニズムは、剛いシステムにはほとんど達成できない。(Coser1956=1978:216、強調は筆者による)

## 新しいケア労働のかたち

- ケアの世界にパラフレーズすると、「男の文化」と「女の文化」がぶつかり合い、刺激を与え合うことで、現時点での問題点を克服するような新しいケアのあり方が見えてくるかもしれない。
- 男性たちは、ヘルパーの活動を女性の家事労働とも、あるいは家族介護とも異なるような、ある程度の専門性をもって確立したひとつの「仕事」としてみなしている。その専門性を支えるものとしては、彼らはヘルパーの活動のなかでの、利用者との間の情緒的関係の調整、さらには自己の感情のコントロールを重視している。(樽川2004:195)
- 感情労働としての「専門性」の確保。プロフェッショナルリズムの導入

## 生きがいしごとサポートセンター播磨東の実践

- マッチング制職業紹介
- 生きがいしごとへの起業・就業・ボランティアの相談、無料職業紹介をします。勤務後の「こんなはずでは…」をなくすため、就業される方も、就業先も納得した上で勤務できるよう、マッチング制の職業紹介を行っています。もちろん、すべて無料です。
- (生きがいしごとサポートセンター播磨東のHPより抜粋)

## ほっといてできるか？

- これまでのケア労働の質の高さ
- 家事労働の延長線上で主婦が担ってきたから(生活協同組合)
- 近代家族の延長線上にある地域社会(「日本型福祉社会論」)
- それが崩壊し、前提がなくなった。
- 個人個人では荷が重すぎるので、就労支援の必要性(ほっといては男性は来ない)






## 地域活動 × 目からウロコ!! 地域力アップセミナー × 団塊世代

～地域づくりの為の理解講座～

▶ **問い**：地域に貢献した活動をされているみなさんに質問します。  
「65歳を過ぎられた方」や「定年退職をされた方」の価値観についてどのくらい理解されていますか？また、参加したいと思う地域活動はどのような活動だと思われますか？

▶ **答え**：先着20名さま限定でお話いたします。



11月27日(金)  
東播磨生活創造センター「かこむ」  
講座研修室(1F) 14:00～15:30

■加古川市加古川町寺家町天沖木97-1 (旧加古川総合庁舎内)  
会場電話番号：079-421-1186



【内 容】 団塊世代の価値観や意識等の理解を深め、みなさんの地域活動にうまく巻き込むためのアプローチを考えます。

【対象者】 自治会や町内会、コミュニティビジネス等、地域に貢献した活動をされている団体や関係者他、地域づくりに興味がある方。

【講 師】 NPO法人 シーズ加古川 総務部


【参加費】 無料 (先着20名)

【申込方法】 裏面の申込書をご記入の上、下記までFAXで申込みいただくか、窓口及び電話にて申込みください。

【講 師】 藤田 (講師) のつぐやき

戦後生まれの「団塊の世代」こそ、日本の繁栄となって社会と経済効果を積み上げてきた。と、言っても過言ではない。戦後教育の基盤は元も角としてこの世代は自由な発想を志向する。志願を尊重し個性の場でもある。目には見えないもの、例えば老人会や集いの場づくりには参加しようとしなさい。この思いにくい低年齢世代のパワーを取り込むには、それなりの準備が必要で・・・ [途中]

【申込・問合せ先】 **生きがいしごとサポートセンター-播磨東**

 TEL/FAX : 079-427-4075 加古川市加古川町寺家町 45 5A (ビル3階)

生きがいしごとサポートセンター-播磨東は、NPO法人シーズ加古川が事務局より運営を受けて運営しています。

## 就労支援では解決できない問題

- しかし、聞こえてくる、「きつすぎる」、「働きたい人なんていない」という声
- 高齢者にでもできるような「地域就労」を創出していく必要がある。
- パートで就労できる環境を残すことは必須である。
- ケアの仕事を機械化、効率化し、高齢者にもできる仕事にしていく(介護ロボットの開発)

## 女性の就労問題

- 中高年主婦パート ⇒ これまでの地域就労を中心的に担ってきた存在。就労へのハードルは低い。
- シングルマザー問題、若年女性問題
- パートタイム労働者とフルタイム労働者では雇用と生活保障の度合いが異なる。
- 圧倒的な賃金の低さ
- 賃金を高めるための専門性の確立

## フルタイム戦略とパートタイム戦略の対立

- 専門性の確立を急ぐフルタイム労働者と無理せず働きたいパートタイム労働者の間の対立が生じている。
- 現場レベルで見られる主婦ワーカー（高齢者ワーカー）とシングルマザーワーカー（若年ワーカー）の間の対立が生じている。
- 現場で起きる不幸な対立
- ケア労働を「ふたつに分ける」という発想

## まったり介護とバリバリ介護

- まったりワーカー(パートタイムのワーカー)とバリバリワーカー(フルタイムのワーカー)の職務を分離する。
- コミュニケーション行為としてのケアと医療行為としてのケア
- どちらが欠けても介護の現場は成り立たず。
- 現時点ではその分離がうまくできていないため、「高齢者にはできない」、「きつすぎて未来がない」と思われてしまう。

## キャリアラダーの構築

- バリバリワーカーに必要なもの＝明るい未来
- 将来はいい暮らしができる、貧乏な生活から脱出できるという「希望」
- これがエントリージョブとしての介護労働の魅力も高める。
- 特に若いワーカーにとって辛いのは、「賃金の低さ」よりも「未来のなさ」である。
- そのため就労支援も拡充していく必要がある。
- 准看護師制度の拡充等

## 一対一の支援が大事

- ふたたび就労支援の問題
- 生活保障としての雇用を可能にする就労支援には色々ある。
- 年金の少ない高齢者、主婦、シングルマザー、若者、外国人・・・などなど。それは一律に決まるものではなく、地方によって多様な、一対一の対応が求められる。
- そのための地方分権の推進

## 就労支援としての家庭支援

- たとえば昼間のど真ん中に開講されている就労支援講座
- 働いているシングルマザーは通える？
- 奥さんのキャリアアップの足を引っ張る夫の存在
- 家庭支援と就労支援は切っても切り離せない関係にある。
- これも地域によって様々なバリエーションがある。

## 誰が就労支援を担うか？

- 今、就労支援の現場で起こっていることは、求職者の多様性と流動性の高まりである。
- 地域のことをよく知る人が、丁寧に、個別にマッチングを考えていく必要がある。
- しかし、地方自治体がサービスに責任をもつことと、直接それをおこなうこととは別問題
- ⇒ NPOの問題へとつながっていく。

現実には、あらゆる人びとが自らの個性や能力を活かして、希望する雇用・就労を実現できるとは限らない状況にある。とくに、被差別地域の居住者、障害者、母子家庭の母親、外国人、中高年齢者などの中には、働く意欲がありながら、年齢や身体的機能、家族構成、出身地などの要因により、雇用・就労を阻害されている人々がいる。これらの人々は、生活に身近なところでの雇用・就労を望んでいる場合が多い。保健・福祉・教育・生活・労働など、日常生活を営むうえで継続した社会的な支援を総合的に、柔軟かつ適切に活用することによって、雇用・就労を支援することができる。(大谷2008:54)

## ハローワークの限界

- 国がおこなうハローワークではきめ細やかな就労支援ができない。
- 橋下知事は、「職業訓練は都道府県、仕事のマッチングは労働局と、非常に連携が取れていない。雇用政策としてはいびつな形」と述べ、労働行政を国から地方に移管することで職を失った人の再就職支援が的確に展開でき、それが増大する生活保護費の抑制にもつながると強調したこと、大阪版ハローワークの実現で「ハローワークの満足度、サービスを（現状よりも）1.5倍に上げる」と語った。（2010年5月20日の大阪日日新聞）
- ローカル・オプティマムとしての就労支援

- 国の労働局の権限を地方で受け入れ、全国一律ではない、地域密着型・ワンストップ型のサービスを提供する大阪版ハローワークを提案するもの。実現すれば、身近な市町村にハローワークのサテライトを設置し、福祉支援と自立・就労支援の一体的な実施や求職者一人ひとりへの最適な支援、企業ニーズに応じた人材の育成・供給などを実施。（大阪府のホームページ  
<http://www.pref.osaka.jp/koho/kaiken/20100519f1.html>）

## まとめ

- ①戦後社会の生活保障システムの崩壊による求職者の多様化、流動化の結果、就労支援サービスは個別対応、地域密着型のサービスが求められている。
- ②介護の現場を見てみると、その担い手の多様性に応じた支援の必要性が理解できるだろう。
- ③ 就労支援に関わる財源は、ナショナル・ミニマムの部門から切り離れたローカル・オプティマムの部門で担当する必要がある。

## 参考文献

- Lewis A. Coser, 1956 *The Functions of Social Conflict*, Routledge & Kegan Paul, =新睦人訳1978『社会闘争の機能』新曜社
- Simmel, Georg, 1923 *Soziologie : Untersuchungen über die Formen der Vergesellschaftung*, Duncker & Humblot, Berlin. =居安正訳 1994 『社会学：社会化の諸形式についての研究』白水社
- 大谷強2008「大阪府における雇用・就労支援政策の取り組み」大谷強・澤井勝編『自治体雇用・就労施策の新展開』公人社
- 竹中平蔵2008『闘う経済学 未来をつくる[公共政策論]入門』集英社インターナショナル
- 樽川典子2004「ジェンダー秩序への挑戦 ～男性ヘルパーの経験から～」『社会学ジャーナル』第29号
- 上野千鶴子2005『老いる準備：介護することされること』学陽書房→朝日文庫(2008)
- 山口道宏2006『男性ヘルパーという仕事 —高齢・在宅・介護を支える—』現代書館
- 山根純佳2007「男性ホームヘルパーの生存戦略 —社会化されたケアにおけるジェンダー—」『ソシオロジ』第51巻3号



# 東播磨生活創造センター

## 「かこむ」の可能性を探る

### NPOの強みは地域密着性

柏木…まず、NPOが公的施設を運営する意義についてですが

宮野…九月に兵庫自治学会で発表されたんですね。

田中…私自身もよい勉強の機会となりました。学会発表といったのも、私たちが管理する施設のことを発表しただけで、他の施設の研究成果をもつて比較するところまで至っていないのですが…。

宮野…集まった皆さんも、実践活動について聞きたいということでも来られている人が多いので、それでよかったです。思います。

柏木…NPOが運営する公共施設について、県側から見られて感じられるところは何かありますか？

宮野…NPOが指定管理を受けているのは全国的にも数少ないですね。

田中…都道府県の施設については全国でわずか0.9%です。市町村の施設になるともう少し割合は高いです。

宮野…指定管理者に対しては質の高さや効率性を求めています。

田中…まだまだNPO側の基盤が弱く、受けられるNPOも少ないのが現状です。受ける側のNPOのスキルや意識をもっと底上げしなくてはいけない、と考えています。

宮野…私はNPOが運営する際のポイントが「地域密着性」だと考えます。シーズ加古川が上手に運営されているのも、「地域密着性」という強みがあるからで（シーズ加古川がやることで）他の団体も一緒にやろうという流れが出て、成果がでてきている。その点は企業では難しい。

田中…「かこむ」で登録団体をサポートさせていただいていますが、私達のような中間支援のNPOでは、そこがミッションになっていて、営利を優先するという感覚とは違っています。反面、サポートばかりが優先して、収益性が上がってこない、というジレンマはあります。

宮野…たしかに、市町の行政は県以上に住民に近い。その庁舎がそうであってもよいと思います。今までは一階は市民課で、住民票とか戸籍とかを取り扱っている。それに加えてもこういったセンターがあれば、もっとシティホールらしい。柏木…そうすれば庁舎も用事がある時だけ来る施設ではなく、気楽に立ち寄れる施設となり、行政も、市民にとつてより身近な存在になっていきますよね。

### 連携と協働の輪を広げる

宮野…「かこむ」には高校生も来ていますよね。勉強が目的ですが、無意識のうちに市民活動とか、生活創造とかが入っている。そういう面があります。

宮野…他の生活創造センターと違うメリットは最大限に利用してほしいと思います。東播磨では「ビジョン活動」とか「県民交流広場事業」はよくやっているといます。そういったところとの連携を考えてほしいと思っています。また、行政と同じ建物にいますので、行政とのタイアップも推進してほしい。農林や土木関係の部署とも情報を取り合ってもらって、相談していく中で、できることがあるのではと思います。

田中…土木関係の部署はこれまでなかったですね。

柏木…おっしゃるように庁舎体となっている強みをもっと活かせるような気がします。

宮野…地域団体との連携はシーズ加古川の得意分野ですね。連携先は、地域団体あり、企業あり、行政ありで様々ですが…。

田中…「県民交流広場」との連携は今、力を入れている分野で、今、実際に現に伺っているいろいろとお話を聞かせて頂いていきます。

柏木…現場に行くと顔と顔を突き合わせなければネットワークができていきません。ネットワークができてきて、何かあった時は「かこむ」に相談してもらったりとか、そういうふうになればいいかなと思っています。

宮野…行き詰ったり、悩んだ時に「かこむ」に行くと相談してみようかといった流れになればいいですね。

柏木…そうなれば理想的です。たとえば、「かこむ」の登録団体さんとコラボすれば解決できることもあると思います。



## 東播磨県民局長との新春対談

兵庫県  
東播磨県民局長

宮野敏明



NPO 法人  
シーズ加古川  
事務局長

柏木登起



NPO 法人  
シーズ加古川  
理事長

田中 茂



### 東播磨生活創造センターの特色を活かす

柏木…兵庫県の生活創造センターとしては、神戸に大阪ガスビジネスクリエイトさんが運営する「神戸生活創造センター」があり、丹波には兵庫丹波の森協会が運営する「丹波の森公苑」があります。企業、財団法人、NPOと三者三様ですね。

宮野…ここ「かこむ」は（兵庫県加古川）総合庁舎と一体となります。庁舎と生活創造と分けて考えるのではなく、市民にとつては庁舎に来るのも生活の一部であり、生活と離れたところにあるのではなく密着したものであると思います。

田中…たしかに庁舎と生活創造センター一体として考えた取り組みが重要ですね。

宮野…先日、加古川市の「景観まちづくり賞」で、ここ総合庁舎と東播磨生活創造センターが並列になって表彰されました。これは建物の景観やデザインというだけで受賞できたわけではなく、使われ方とか、いろんな意味合いがあつて総合的に評価されたと思います。

柏木…それは嬉しいお話ですね。

宮野…兵庫県は生活行政先進県だと思っています。過去、生活の科学化、生活の文化化、生活創造と展開してきて、現在、参画と協働を基本姿勢に、生活重視の県政に取り組んでいます。兵庫県政の中で、生活創造センターの取り組みは兵庫県らしい取り組みといえます。ところで、今「かこむ」の累積入場者は何人になりましたか？

田中…40万人を超えましたね。

宮野…あとは評価・評判ですね。私も行事などで機会があれば、「庁舎の一階には「かこむ」という生活創造センターがあつてね」「こういう使い方ができるんですよ」と宣伝しています。すると「また行ってみます」と言ってくれたりします。

柏木…確かに、ふらつと庁舎に来られた方が、「かこむ」に寄つて、登録団体紹介カードをじつと見られています。

宮野…何か目的をもつて来る人もいけれど、それ以外の人も多く来てくれる。

柏木…庁舎と一体になっていることで、生活創造に興味のない人が来られ、ふらつと「かこむ」に寄つて行かれる。そこで意識啓発ができる意味は大きいですね。

田中…その意味では、市役所の一・二階は生活創造センターや市民活動センターという考え方は正しいです。

宮野…スタッフがその場で答えを出せなくても、やり取りをやっているうちにいいアイデアも出てくると思います。そういう意味でも連携が大事ですね。

### 地域への誇りと愛着を生み出す

宮野…東播磨県民局長は「豊かな水辺空間」という地域の特性を活かした活動を推進しているのですが、民間レベルでも盛り上げてもらえればいいなと思います。それで自分たちの住んでいる地域を誇れるようになればいいなと思います。残念ながらですが、県民意識調査では「住んでいる地域に誇りや愛着を感じる」という人が少ないというデータもあります。

柏木…そうなんですか。ショックですね。

宮野…今は地域を意識した生活をしてないのかもしれませんが、交通も便利だし、豊かです。むしろ豊かでない土地の方が誇りをもっているかもしれません。地域のことを一生懸命するでしょうから。豊かな地域への意識が薄いのもかもしれません。しかし、ふるさと意識は地域活動に関わる中で、自然と醸成されていくと思います。

田中…先ほども話しましたが、行政と生活創造センターが協働して取り組めることはたくさんあるな、ということに気づかされました。

柏木…今日は、その点をものすごく感じ、生活創造センターとして大きな課題を背負わされました。

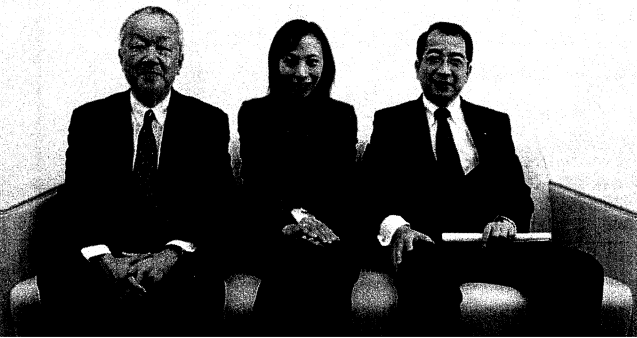
宮野…そういう面も意識してもらえれば、行政としてもうれしい。

柏木…今日は本当に意味のある対談となりました。

宮野…誇りをもってくださいね。私は最高の生活創造センターだと思っていますよ。

田中…生活創造センターらしい、まさに「This is 生活創造センター」といえる施設だと思っています。

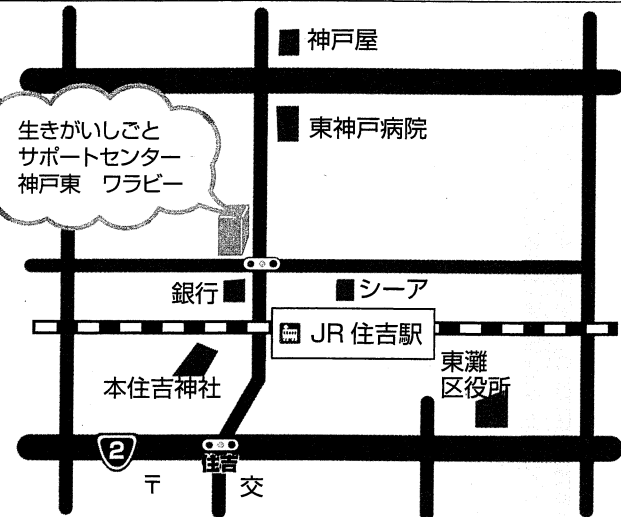
田中…柏木…有難うございました。



**生きがいごとサポートセンター神戸東 ワラビー**  
(運営: NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸)

〒658-0051  
神戸市東灘区住吉本町 2-13-1 森田ビル 3F  
TEL 078-841-0387 FAX 078-841-0312  
URL <http://www.cs-wallaby.com>

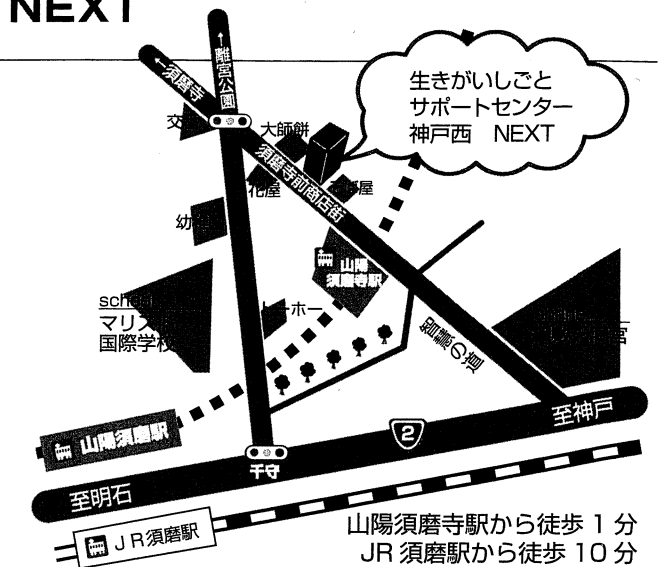
ご相談者お一人おひとりの気持ちに寄り添いながら、地域のネットワークを活かしたサポートをしています。JR 住吉駅から徒歩 1 分の便利な場所にある当センターで、自分らしい生きがいごとを見つけませんか?



**生きがいごとサポートセンター神戸西 NEXT**  
(運営: NPO 法人しゅらく)

〒654-0071  
神戸市須磨区須磨寺町 2 丁目 2-4  
TEL 078-731-2251 FAX 078-735-0164  
URL <http://ikisapo.com/next>

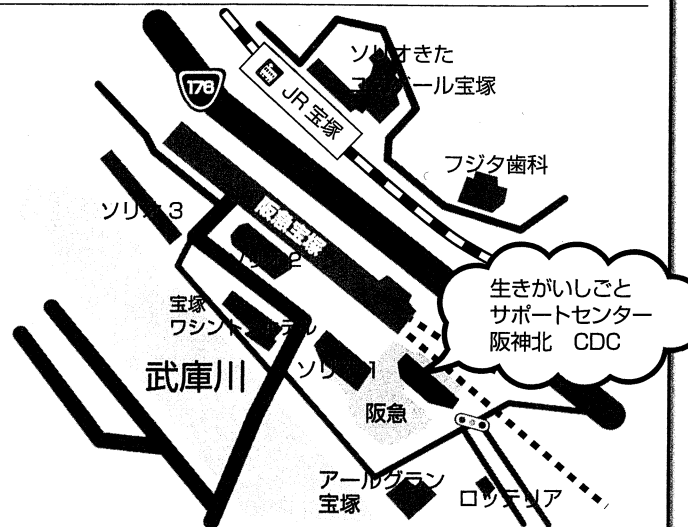
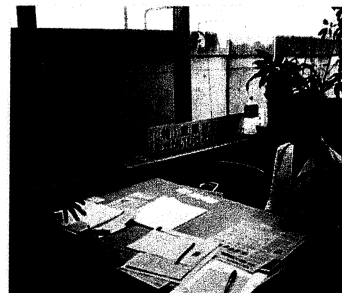
当センターは、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスなど「社会貢献+ビジネス」で働きたい方をお手伝いしています。「自立した NPO で生きていく」をテーマに、NPO 法人設立から職業紹介、セミナーの開催まで幅広い支援を行っています。



**生きがいごとサポートセンター阪神北 CDC**  
(運営: NPO 法人宝塚 NPO センター)

〒665-0845  
宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F  
TEL 0797-87-4350 FAX 0797-87-4351  
URL <http://www.hnpo.net/n/cdc>

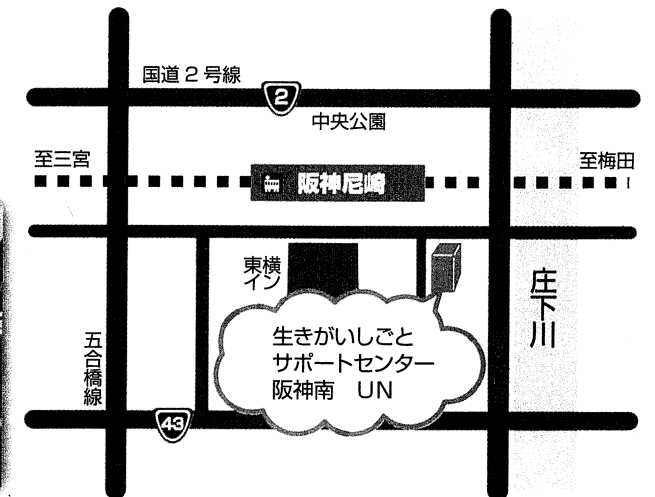
当センターで注力しているのは、NPO 法人を中心としたコミュニティビジネスの起業支援で、起業実績は 251 件 (2002 ~ 2010 年 7 月現在)。相談者と「一緒に考えて課題解決!」をモットーに、食べていける組織作り、安心安全の地域づくりのお手伝いをしています。



**生きがいごとサポートセンター阪神南 UN**  
(運営: NPO 法人シンフォニー)

〒660-0861  
尼崎市御園町 5 尼崎土井ビルディング 2F  
TEL 06-6412-8448 FAX 06-6412-8444  
URL <http://ikisapo.npos.biz>

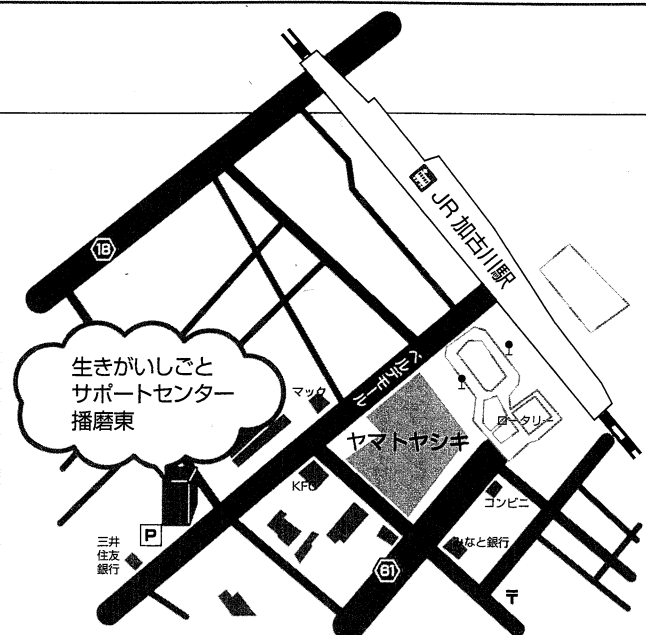
個々の「生きがい」を大切に社会貢献をしながら働いたり、誰かの「困ったな」をサポートする方々を応援しています。起業、事業運営、お仕事相談は阪神尼崎駅すぐの UN へお越しください!



**生きがいごとサポートセンター播磨東**  
(運営: NPO 法人シーズ加古川)

〒675-0066  
加古川市加古川町寺家町 45 JA ビル 3 階  
TEL 079-427-4075 FAX 079-427-4075  
URL <http://www.npo-seeds.jp/ikisapo>

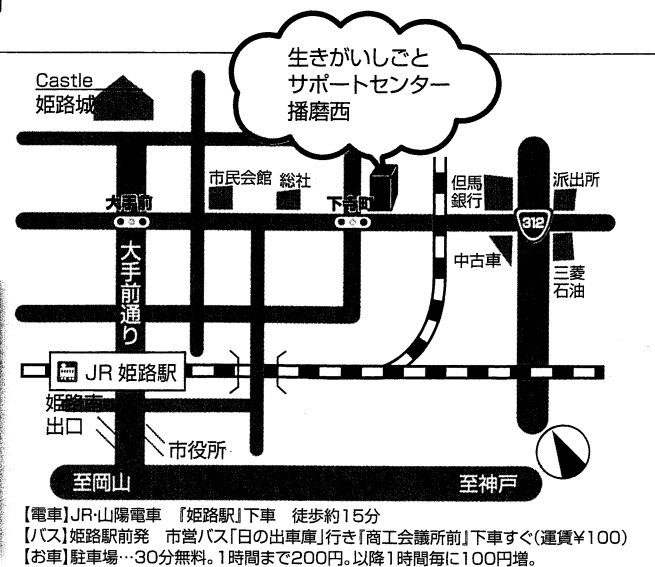
生きがいごとサポートセンター播磨東は、NPO も含めコミュニティ・ビジネス、ソーシャル・ビジネスの総合的な支援機関です。起業や運営における「想いをカタチにする」あらゆるサポートを実施しています。



**生きがいごとサポートセンター播磨西**  
(運営: NPO 法人コムサロン 21)

〒670-0932  
姫路市下寺町 43 姫路商工会議所新館 4 階  
TEL 079-224-8900 FAX 079-224-1553  
URL <http://www.ikisapo-harima.com>

社会貢献したい人や団体の支援を目的に平成 3 年から活動しています。起業や就労のお手伝いはもちろん、より地域に定着できるよう事務局代行を含めた継続サポートも行い、現在、「イーグレひめじ」1 階と、姫路商工会議所新館の 2 か所にて活動しています。



生きがいあるセカンドライフを送るためのバスツアー

2011年1月28日(金)

10時～17時

参加費:1000円  
昼食・お茶付き

訪問場所:加古川市内、イキイキパワーが得られる所

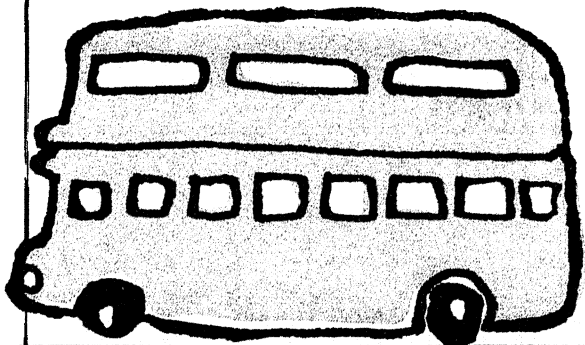
これからからの生き方を  
デザインする旅

「定年後も充実した毎日を謳歌する。」  
「今までの経験を活かした新しい生きがいを見つける。」

これは、誰にも与えられた、来るべき将来の姿です。

あなたの輝かしい第二の人生を確かなものにするために、  
これからの人生をどう生きていくか―

どのように生き活きと充実したものにしていくか―  
そんなことを描いてみる旅に、出かけてみませんか。



旅

旅

主催:生きがいしごとサポートセンター播磨東

TEL/FAX:079-427-4075

詳細は裏面へ

# 生きがいあるセカンドライフを送るためのバスツアー

## これからの生き方をデザインする旅

退職後や、子育て終了後の人生も長い現代。せっかくの自分時間をより有意義に過ごすために、ほんの少し、新しい世界へと飛び出してみる勇気が必要かもしれません。

このツアーでは、これまでの自分自身を振り返り、すでに生き活きと充実した毎日を過ごしているシニア世代の先輩から話を聞くことで、これからの生き方を自らデザインし、第2の人生を輝きあるものにしていく機会にいただければと考えています。

セカンドライフをワクワク楽しみたい方、ぜひご参加ください。

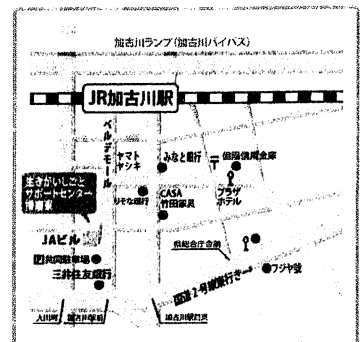
### <行程>

時間	訪問場所	内容
10:00-11:30	生きがいしごとサポートセンター播磨東 加古川駅より南へ徒歩5分、JAビル3階にあります。こちらが集合場所です。	<b>1.オリエンテーション</b> ①趣旨説明等 ②「今までの自分、これからの自分を考える」ミニ講座
バス移動		
12:00-13:00	エンカーレッジハウスのこのこ溝之口 障がい者の方々が就労に向けて仕事体験をするための喫茶スペースです。	<b>2.昼食</b> 高木施設長の生き方、働き方についてのお話を聞きながら昼食&食後のティータイム。
バス移動		
13:30-15:30	いなみの学園 (財)生きがい創造協会が運営する、シニア世代の方を対象とした学習施設です。	<b>3.いなみの学園 オープンキャンパス</b> 学園生活の楽しみや地域活動のやりがい、そのきっかけなど、実際の経験談を学園生の方々に伺います。
バス移動		
16:00-16:30	ファミリーファーム 農作業を通じて生きがいと健康づくりを提供する指導者付き貸し農園。	<b>4.ファミリーファーム 見学</b> ファミリーファームで行われている様々な活動の見学と、活動されている方々からお話を伺います。
バス移動		
17:00	JR加古川駅 北ロータリー	<b>5.解散</b>

### <詳細>

### <集合場所地図>

- 日時:2011年1月28日(金) 午前10時から午後5時
- 集合場所:生きがいしごとサポートセンター播磨東(JAビル3階)  
住所…加古川市加古川町寺家町45
- 解散場所:JR加古川駅北ロータリー
- 参加費:1000円(昼食・お茶付、保険代込)
- お問い合わせ・お申込み:電話またはFAXにてお申し込みください。  
電話/FAX…生きがいしごとサポートセンター播磨東 **079-427-4075**



### 生きがいあるセカンドライフを送るためのバスツアー FAXお申込み用紙

FAXでお申し込みの方は、下記欄をご記入の上、送信ください。 FAX送信先:079-427-4075

お名前		おところ
ご年齢 歳	性別 男性・女性	ご連絡先 お電話番号: FAX番号:

主催:生きがいしごとサポートセンター播磨東 (NPO法人シーズ加古川が兵庫県の補助を受けて運営しています。)